

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-357949

(43)Date of publication of application : 26.12.2000

(51)Int.Cl.

H03K 5/08
H01L 27/04
H01L 21/822
H03K 19/003
H03K 19/018
H03K 19/0944
H04L 25/02

(21)Application number : 11-168164

(71)Applicant : TEXAS INSTR JAPAN LTD

(22)Date of filing : 15.06.1999

(72)Inventor : OYAMADA SHIGEMASA

(54) CLAMPING CIRCUIT AND INTERFACE CIRCUIT USING THE SAME

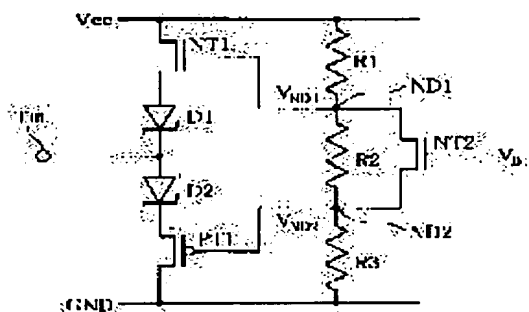
(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a clamping circuit where circuit constitution can be simplified, the range of clamping voltage can easily be set and power consumption can be reduced, and to provide an interface circuit using the clamping circuit.

SOLUTION: An nMOS transistor NT1 and a diode D1 and are connected in series between the supply line of power voltage Vcc and an input terminal Tin, and a diode D2 and a pMOS transistor PT1 are connected in series between the input terminal Tin and a ground potential GND. Divided voltage VND1 and VND2,

obtained from resistors R1, R2 and R3 connected to the control terminals of the transistors NT1 and PT1 in series, are respectively applied to the bases of the

transistors NT1 and PT1. A transistor NT2 is connected in parallel to the resistor R2. The divided voltage is controlled by a control voltage VB inputted to the control terminal of NT2, and the range of clamping voltage can be controlled. The terminating resistor of a transmission line can be omitted by connecting a clamping circuit to the input sides of respective buffer on the transmission line.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

15.06.1999

BEST AVAILABLE COPY

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3499157

[Date of registration] 05.12.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-357949

(P2000-357949A)

(43) 公開日 平成12年12月26日 (2000. 12. 26)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード(参考)

H 0 3 K 5/08

H 0 3 K 5/08

Z 5 F 0 3 8

H 0 1 L 27/04

19/003

E 5 J 0 3 2

21/822

H 0 4 L 25/02

R 5 J 0 5 6

H 0 3 K 19/003

H 0 1 L 27/04

H 5 K 0 2 9

19/018

H 0 3 K 19/092

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号

特願平11-168164

(22) 出願日

平成11年6月15日 (1999. 6. 15)

(71) 出願人 390020248

日本テキサス・インスツルメンツ株式会社

東京都新宿区西新宿六丁目24番1号

(72) 発明者 小山田 成聖

大分県速見郡日出町大字川崎字高尾4260番

地 日本テキサス・インスツルメンツ株式
会社内

(74) 代理人 100094053

弁理士 佐藤 隆久

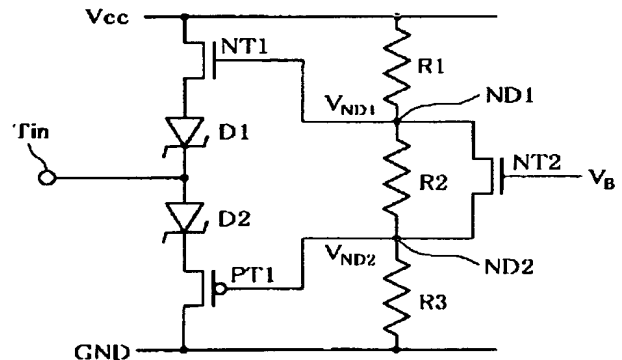
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 クランプ回路及びそれを用いたインターフェース回路

(57) 【要約】

【課題】 回路構成の簡素化が図れ、クランプ電圧の範囲を容易に設定でき、消費電力の低減を実現できるクランプ回路及びそれを用いたインターフェース回路を提供する。

【解決手段】 電源電圧 V_{CC} の供給線と入力端子 T_{in} との間にnMOSトランジスタNT1とダイオードD1を直列接続し、入力端子 T_{in} と接地電位GNDとの間にダイオードD2とpMOSトランジスタPT1を直列接続する。トランジスタNT1とPT1の制御端子に直列接続されている抵抗素子R1、R2、R3から得られる分圧電圧 V_{ND1} と V_{ND2} をそれぞれ印加し、さらに抵抗素子R2と並列にトランジスタNT2を接続し、NT2の制御端子に入力する制御電圧 V_B により分圧電圧を制御し、クランプ電圧の範囲を制御できる。クランプ回路を伝送線上の各バッファの入力側に接続することで、伝送線の終端抵抗を省略できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】入力端子と第1の電圧供給線との間に電氣的に直列に接続されている第1のトランジスタと第1のダイオードとを含む第1の回路と、
上記第1のトランジスタの制御端子に第1の電圧を供給するための第1の電圧供給端子と、
を有し、上記第1の電圧供給端子と上記入力端子との間の電圧が所定の値になると上記第1のトランジスタが導通して上記入力端子の電圧をクランプするクランプ回路。

【請求項2】上記入力端子と第2の電圧供給線との間に電氣的に直列に接続されている第2のトランジスタと第2のダイオードとを含む第2の回路と、
上記第2のトランジスタの制御端子に第2の電圧を供給するための第2の電圧供給端子と、
を有し、上記第1の電圧供給端子と上記入力端子との間の電圧又は上記第2の電圧供給端子と上記入力端子との間の電圧が所定の値になると上記第1又は第2のトランジスタが導通して上記入力端子の電圧をクランプする請求項1に記載のクランプ回路。

【請求項3】上記第1の電圧供給線と上記第2の電圧供給線との間に直列に接続された第1、第2及び第3の抵抗素子を有し、上記第1の抵抗素子と上記第2の抵抗素子との接続中点が上記第1の電圧供給端子を構成し、上記第2の抵抗素子と上記第3の抵抗素子との接続中点が上記第2の電圧供給端子を構成する請求項2に記載のクランプ回路。

【請求項4】上記第1のダイオードのカソードが上記入力端子に接続され、上記第1のトランジスタが上記第1のダイオードのアノードと上記第1の電圧供給線との間に接続されており、上記第2のダイオードのアノードが上記入力端子に接続され、上記第2のトランジスタが上記第2のダイオードのカソードと上記第2の電圧供給線との間に接続されており、上記第1の電圧供給線に電源電圧が供給され、上記第2の電圧供給線に接地電位が供給される請求項3に記載のクランプ回路。

【請求項5】上記第1の電圧供給端子と上記第2の電圧供給端子との間に接続された第3のトランジスタを有し、当該第3のトランジスタの制御端子に印加する電圧を制御することにより上記第1及び第2の電圧供給端子の電圧が変化する請求項4に記載のクランプ回路。

【請求項6】上記第1及び第2の回路が電氣的に直列に接続された複数のダイオードを含む請求項2、3、4又は5に記載のクランプ回路。

【請求項7】上記第1のトランジスタがnチャネルMOSトランジスタであり、上記第2のトランジスタがpチャネルMOSトランジスタであり、上記ダイオードがショットキー・バリア・ダイオードである請求項2、3、4、5又は6に記載のクランプ回路。

【請求項8】信号線と、

出力端子が上記信号線に接続され、上記信号線を所定の電圧に駆動するための駆動回路と、

入力端子が上記信号線に接続され、上記信号線の電圧に応じて動作する入力回路と、

上記入力回路の入力端子に接続されているクランプ回路と、

を有し、上記クランプ回路が請求項1乃至7の何れかに記載のクランプ回路であるインターフェース回路。

【請求項9】上記信号線に接続された複数の入力回路と、上記複数の入力回路の各入力端子に接続された複数のクランプ回路を有する請求項8に記載のインターフェース回路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、入力信号の電圧を所定の範囲内に制限するクランプ回路及び当該クランプ回路を用いたインターフェース回路に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、集積回路内部やPCB (Printed Circuit Board:印刷配線基板)の配線などにはESD (Electrostatic Discharge:静電気放電)耐圧の向上や反射ノイズの抑制のため、ダイオード・クランプ回路またはショットキー・バリア・ダイオード・クランプ回路が用いられている。図7は、ショットキー・バリア・ダイオード・クランプ回路の一例を示している。

【0003】図7に示すように、このクランプ回路は、電源電圧 V_{CC} の供給線と接地電位GNDとの間に直列接続されているショットキー・バリア・ダイオード (Schottky Barrier Diode, ショットキー障壁ダイオードとも呼ばれ、以下の説明では、便宜上単にダイオードという) D1、D2により構成されている。

【0004】ダイオードD1のアノードが入力端子 T_{in} に接続され、カソードが電源電圧 V_{CC} の供給線に接続されている。ダイオードD2のアノードが接地され、カソードが入力端子 T_{in} に接続されている。ここで、ダイオードD1の順方向立ち上がり電圧を V_{D1} とすると、入力端子 T_{in} の信号電圧 V_{in} が($V_{in} > V_{CC} + V_{D1}$)を満足すると、ダイオードD1が導通し、入力端子 T_{in} の電圧 V_{in} は電源電圧 V_{CC} よりダイオードD1の導通電圧分だけ高い電圧にクランプされる。ダイオードD2の順方向立ち上がり電圧を V_{D2} とすると、入力端子 T_{in} の信号電圧 V_{in} が($V_{in} < -V_{D2}$)を満足すると、ダイオードD2が導通し、入力端子 T_{in} の電圧 V_{in} は接地電位GNDよりダイオードD1の導通電圧分だけ低い電圧にクランプされる。

【0005】図8は、図7に示すクランプ回路のクランプ特性を示している。図示のように、このクランプ回路を、例えば、信号伝送線の終端に接続することにより、当該信号伝送線の終端電圧が、接地電位GNDよりわず

か低い電圧から、電源電圧 V_{CC} よりわずかに高い電圧までの範囲内にクランプされる。このため、伝送線の終端における信号の反射を防止でき、伝送線上の反射ノイズの発生を抑制できる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】ところで、上述した従来のクランプ回路において、クランプ電圧の範囲は、電源電圧 V_{CC} 及びクランプ回路に用いられているダイオードの導通電圧によって決まり、クランプ電圧を任意に設定することができない。また、ダイオードの導通電圧により、クランプ電圧範囲が電源電圧 V_{CC} 及び接地電位 GND よりわずかに遷移する。このため、例えば、接地電位 GND と電源電圧 V_{CC} の間に入力端子 T_{in} の電圧 V_{in} をクランプしたい場合、ダイオード $D1$ のカソードとダイオード $D2$ のアノードにそれぞれ図9に示すように、電圧 V_{c1} と V_{c2} を供給しなければならない。このため、これらの電圧 V_{c1} と V_{c2} を発生する電圧源を別途設けなければならない、回路構成の簡素化が要求される終端回路にとっては好ましくない。

【0007】本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、回路構成が簡単で、クランプ電圧範囲を任意に設定可能なクランプ回路及びそれを用いたインターフェース回路を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明のクランプ回路は、入力端子と第1の電圧供給線との間に電氣的に直列に接続されている第1のトランジスタと第1のダイオードとを含む第1の回路と、上記第1のトランジスタの制御端子に第1の電圧を供給するための第1の電圧供給端子とを有し、上記第1の電圧供給端子と上記入力端子との間の電圧が所定の値になると上記第1のトランジスタが導通して上記入力端子の電圧をクランプする。

【0009】また、本発明のクランプ回路は、入力端子と第1の電圧供給線との間に電氣的に直列に接続されている第1のトランジスタと第1のダイオードとを含む第1の回路と、上記第1のトランジスタの制御端子に第1の電圧を供給するための第1の電圧供給端子と、上記入力端子と第2の電圧供給線との間に電氣的に直列に接続されている第2のトランジスタと第2のダイオードとを含む第2の回路と、上記第2のトランジスタの制御端子に第2の電圧を供給するための第2の電圧供給端子とを有し、上記第1の電圧供給端子と上記入力端子との間の電圧又は上記第2の電圧供給端子と上記入力端子との間の電圧が所定の値になると上記第1又は第2のトランジスタが導通して上記入力端子の電圧をクランプする。

【0010】また、本発明では、好適には、上記第1の電圧供給線と上記第2の電圧供給線との間に直列に接続された第1、第2及び第3の抵抗素子を有し、上記第1の抵抗素子と上記第2の抵抗素子との接続中点が上記第

1の電圧供給端子を構成し、上記第2の抵抗素子と上記第3の抵抗素子との接続中点が上記第2の電圧供給端子を構成する。

【0011】更に、本発明では、好適には、上記第1のダイオードのカソードが上記入力端子に接続され、上記第1のトランジスタが上記第1のダイオードのアノードと上記第1の電圧供給線との間に接続されており、上記第2のダイオードのアノードが上記入力端子に接続され、上記第2のトランジスタが上記第2のダイオードのカソードと上記第2の電圧供給線との間に接続されており、上記第1の電圧供給線に電源電圧が供給され、上記第2の電圧供給線に接地電位が供給される。

【0012】また、本発明のインターフェース回路は、信号線と、出力端子が上記信号線に接続され、上記信号線を所定の電圧に駆動するための駆動回路と、入力端子が上記信号線に接続され、上記信号線の電圧に応じて動作する入力回路と、上記入力回路の入力端子に接続されている上述のクランプ回路とを有する。

【0013】

【発明の実施の形態】図1は本発明に係るクランプ回路の一実施形態を示す回路図である。図示のように、本実施形態のクランプ回路は、ダイオード $D1$ 、 $D2$ 、 n チャネルMOSトランジスタ（以下、便宜上 n MOSトランジスタという） $NT1$ 、 $NT2$ 、 p チャネルMOSトランジスタ（以下、便宜上 p MOSトランジスタという） $PT1$ 及び抵抗素子 $R1$ 、 $R2$ 、 $R3$ により構成されている。ここで、ダイオード $D1$ と $D2$ は、 p n 接合ダイオードまたはショットキー・バリア・ダイオードの何れでもよく、図1では、一例としてショットキー・バリア・ダイオードを用いたクランプ回路を示している。

【0014】抵抗素子 $R1$ 、 $R2$ と $R3$ は、電源電圧 V_{CC} の供給線と接地電位 GND との間に直列接続されている。抵抗素子 $R1$ と $R2$ との接続点はノード $ND1$ を形成し、抵抗素子 $R2$ と $R3$ との接続点がノード $ND2$ を形成する。 n MOSトランジスタ $NT1$ 、ダイオード $D1$ 、 $D2$ 及び p MOSトランジスタ $PT1$ が電源電圧 V_{CC} の供給線と接地電位 GND との間に直列接続されている。 n MOSトランジスタ $NT1$ において、そのドレインが電源電圧 V_{CC} の供給線に接続され、ゲートがノード $ND1$ に接続されている。ダイオード $D1$ のアノードが n MOSトランジスタ $NT1$ のソースに接続され、カソードが入力端子 T_{in} に接続されている。ダイオード $D2$ のアノードが入力端子 T_{in} に接続され、カソードが p MOSトランジスタ $PT1$ のソースに接続されている。 p MOSトランジスタ $PT1$ において、そのゲートがノード $ND2$ に接続され、ドレインが接地されている。また、 n MOSトランジスタ $NT2$ において、そのドレインがノード $ND1$ に接続され、ソースがノード $ND2$ に接続され、ゲートが制御電圧 V_B の入力端子に接続されている。

【0015】上述した構成を有するクランプ回路において、入力端子 T_{in} に入力される信号のレベルがある所定の範囲を越えたとき、入力信号がクランプされる。以下、本実施形態のクランプ回路の動作について説明する。

【0016】まず、nMOSトランジスタNT2のゲートに印加されている制御電圧 V_B により、トランジスタNT2がオフ状態に保持されている場合について考察する。この場合、トランジスタNT2のドレインとソース間の抵抗が大きく、その影響を無視できる。このため、ノードND1とノードND2の電圧 V_{ND1} と V_{ND2} は、A抵抗素子R1、R2、R3による分圧電圧となり、これらの抵抗素子のそれぞれの抵抗値によって決まる。例えば、電源電圧 V_{CC} を3Vとし、抵抗素子R1、R2とR3の抵抗値が等しいと仮定すると、ノードND1の電圧 V_{ND1} が2V、ノードND2の電圧 V_{ND2} が1Vとなる。

【0017】nMOSトランジスタNT1のゲート-ソース間電圧を V_{gsn} とし、ダイオードD1の順方向立ち上がり電圧を V_{D1} とすると、入力端子 T_{in} の入力信号の電圧 V_{in} が $(V_{ND1} - V_{gsn} - V_{D1})$ より低くなると、nMOSトランジスタNT1が導通し、入力端子 T_{in} が $(V_{ND1} - V_{gsn} - V_{D1})$ にクランプされる。一方、pMOSトランジスタPT1のゲート-ソース間電圧を V_{gsp} とし、ダイオードD2の順方向立ち上がり電圧を V_{D2} とすると、入力端子 T_{in} の入力信号の電圧 V_{in} が $(V_{ND2} + V_{gsp} + V_{D2})$ より高くなると、pMOSトランジスタPT1が導通し、入力端子 T_{in} が $(V_{ND2} + V_{gsp} + V_{D2})$ にクランプされる。

【0018】ここで、次式のようにクランプ電圧を求める。

【0019】

【数1】

$$V_{CL1} = V_{ND1} - V_{gsn} - V_{D1} \quad \cdots (1)$$

【0020】

【数2】

$$V_{CL2} = V_{ND2} + V_{gsp} + V_{D2} \quad \cdots (2)$$

【0021】ここで、クランプ電圧 V_{CL1} と V_{CL2} は、それぞれ図1に示すクランプ回路の下側クランプ電圧及び上側クランプ電圧である。入力端子 T_{in} の信号電圧 V_{in} は、 $(V_{CL1} < V_{in} < V_{CL2})$ を満たしているとき、クランプ回路におけるnMOSトランジスタNT1とpMOSトランジスタPT1がともに非導通状態にあり、入力端子 T_{in} はハイインピーダンス状態を示す。入力信号電圧 V_{in} が V_{CL1} 以下になると、nMOSトランジスタNT1が導通し、入力端子 T_{in} の電圧が V_{CL1} にクランプされる。一方、入力信号電圧 V_{in} が V_{CL2} 以上になると、pMOSトランジスタPT1がオンし、入力端子 T_{in} が V_{CL2} にクランプされる。

【0022】一例として、 $V_{gsn} = 1V$ 、 $V_{gsp} = 1V$ 、

3V、且つ、 $V_{D1} = V_{D2} = 0.3V$ とすると、式(1)及び(2)により、 $V_{CL1} = 0.7V$ 、 $V_{CL2} = 2.6V$ となる。入力信号電圧 V_{in} が0.7Vから2.6Vまでの範囲を越えたとき、クランプ回路においてnMOSトランジスタNT1またはpMOSトランジスタPT1の何れかが導通し、入力信号電圧 V_{in} がクランプされる。

【0023】次に、nMOSトランジスタNT2のゲートに入力される制御電圧 V_B の制御機能について説明する。制御電圧 V_B のレベルに応じて、nMOSトランジスタNT2の導通/非導通が制御される。さらに、nMOSトランジスタNT2が導通状態にあるとき、制御電圧 V_B のレベルに応じて、nMOSトランジスタNT2のドレイン-ソース間の抵抗、いわゆるオン抵抗が変化する。

【0024】図1に示すクランプ回路において、制御電圧 V_B のレベルが高くなり、ある所定の値を越えると、nMOSトランジスタNT2がオンし、さらに、制御電圧 V_B のレベルが上昇すると、nMOSトランジスタNT2のオン抵抗値が下がっていく。

【0025】nMOSトランジスタNT2のオン抵抗が抵抗素子R2と並列に接続されている。nMOSトランジスタNT2のオン抵抗値が低下すると、ノードND1とND2との間の抵抗値が低下し、その結果、ノードND1の電圧 V_{ND1} が低下し、逆に、ノードND2の電圧 V_{ND2} が上昇する。

【0026】式(1)により、ノードND1の電圧 V_{ND1} が低下すると、下側クランプ電圧 V_{CL1} が低下する。式(2)により、ノードND2の電圧 V_{ND2} が上昇すると、上側クランプ電圧 V_{CL2} が上昇する。即ち、入力信号電圧 V_{in} のクランプ電圧範囲が広がる。

【0027】図2(a)と(b)は、nMOSトランジスタNT2のゲートに印加される制御電圧 V_B を制御することによるクランプ電圧範囲の変化を示している。同図(a)に、例えば、制御電圧 V_B が0Vであり、nMOSトランジスタNT2が非導通状態にある場合のクランプ電圧の範囲を示している。この場合、上述した例において、上側のクランプ電圧 V_{CL2} が2.6Vであり、下側のクランプ電圧 V_{CL1} が0.7Vとなる。同図

(b)には、制御電圧 V_B を比較的高い電圧に設定し、nMOSトランジスタNT2が導通状態にある場合のクランプ電圧の範囲を示している。ここで、例えば、制御電圧 V_B が2.0Vのとき、nMOSトランジスタNT2がオンし、下側のクランプ電圧 V_{CL1} が降下し、逆に上側のクランプ電圧 V_{CL2} が上昇するので、クランプ電圧範囲が制御電圧 V_B が0Vの場合に比べて広がる。

【0028】以上説明したように、本実施形態のクランプ回路によれば、nMOSトランジスタNT2のゲートに印加される制御電圧 V_B のレベルを調整することにより、クランプ電圧の範囲を制御でき、単一電圧の制御に

よってフレキシブルなクランプ特性が得られる。

【0029】なお、図1に示すクランプ回路では、nMOSトランジスタNT1のドレインと入力端子 T_{in} との間に1段のダイオードD1のみが接続されているが、縦続接続の複数段のダイオードを用いてもよい。同様に、入力端子 T_{in} とpMOSトランジスタPT1のソースとの間に、縦続接続の複数段のダイオードを用いてもよい。また、ノードND1とND2の電圧 V_{ND1} と V_{ND2} を制御するためのnMOSトランジスタNT2は、pMOSトランジスタに置き換えてもよい。

【0030】以下、本実施形態のクランプ回路の具体的な応用例について説明する。まず、従来のCMOSドライバと抵抗型終端回路を有するインターフェース回路の一例を図3を参照しつつ説明する。図示のように、ここで、信号伝送線TLを駆動するドライバDRV1は、例えば、CMOSドライバである。伝送線TLの終端側に抵抗素子R10とR12により構成されている終端回路、いわゆるテブナン型終端回路が接続されている。この終端回路において、抵抗素子R10とR12は、電源電圧 V_{CC} の供給線と接地電位GNDとの間に直列接続されている。抵抗素子R10とR12との接続中点が伝送線TLの終端に接続されている。

【0031】図3の例では、ドライバDRV1の出力が伝送路TLを介してバッファBUF1、BUF2、…、BUF5に伝送される。このようなインターフェース回路において、信号伝送の高速化を図り、終端の反射によるノイズを防止するため、抵抗素子を用いて終端を行う。図3に示すように、終端用の抵抗素子R10とR12が電源電圧 V_{CC} 供給線と接地電位GNDとの間に直列接続されている。抵抗素子R10とR12の抵抗値は、伝送路TLの特性インピーダンス Z_0 に応じて設定される。通常信号伝送線の特性インピーダンスの定格値は、例えば、50Ω、75Ω又は100Ωなどに定められている。これに対応して終端用の抵抗素子R10とR12の抵抗値も低く設定される。このため、図3に示す終端回路において、抵抗素子R10とR12に常に大きなバイアス電流が流れ、無駄な電力損失が生じる。

【0032】図4は、本発明のクランプ回路を用いたインターフェース回路の一例を示している。図3に示すインターフェース回路に比べて、このインターフェース回路では、CMOSドライバDRV1の代わりにULTTLドライバDRV2が用いられている。ドライバDRV2の出力が伝送路TLを通してバッファBUF1、BUF2、…、BUF5に伝送される。伝送路の終端において、図3に示す抵抗素子で構成された終端回路がなく、その代わりに各バッファBUF1、…、BUF2、…、BUF5の入力端子にクランプ回路CLP1、CLP2、…、CLP5が接続されている。ここで、クランプ回路CLP1、CLP2、…、CLP5は、図1に示すクランプ回路と同じ構成を有するものである。

【0033】図4に示すインターフェース回路において、抵抗素子によって構成された終端回路がないため、抵抗素子を通るバイアス電流による無駄な電力損失が発生しない。各バッファの入力端子に設けられたクランプ回路CLP1、CLP2、…、CLP5によって、伝送線TL上に信号の反射などによって発生する大きな電圧がクランプされる。即ち、伝送線TLにおける信号の反射が防止でき、インターフェース回路における反射ノイズを抑制できる。

【0034】図5(a)と(b)は、図3のCMOSドライバDRV1と終端抵抗を用いた終端回路及び図4のULTTLドライバDRV2とクランプ回路を用いた終端回路の電流を示している。図5(a)において、A1とA2は、それぞれCMOSドライバDRV1の出力がハイレベル及びローレベルのときの出力インピーダンス特性を示し、Bは終端抵抗素子のインピーダンス特性を示している。ここで、電源電圧 V_{CC} を、例えば3Vとし、抵抗素子R10とR12の抵抗値をとともに200Ωとする。この場合、終端抵抗値R、即ち、抵抗素子R10とR12の並列抵抗値が100Ωとなる。

【0035】図5(a)に示すように、CMOSドライバDRV1の出力がハイレベルのとき、伝送線TLの電圧Vはハイレベルの出力インピーダンス特性A1と終端抵抗のインピーダンス特性Bとの交差点Hに安定する。このとき、CMOSドライバDRV1から伝送線TLに電流 I_H が供給される。一方、CMOSドライバDRV1の出力がローレベルのとき、伝送線TLの電圧Vは、ローレベルの出力特性A2と終端抵抗のインピーダンス特性Bとの交差点Lに安定する。このとき、CMOSドライバDRV1から負の電流 I_L が伝送線TLに供給される。即ち、伝送線TLからドライバDRV1の出力端子Tに引き込み電流 I_L が発生する。

【0036】図5(b)において、C1とC2は、それぞれULTTLドライバDRV2の出力がハイレベル及びローレベルのときの出力インピーダンス特性を示し、D1及びD2は、それぞれクランプ回路の上側(ハイレベル側)と下側(ローレベル側)のクランプ特性を示している。また、点線Bにより、同図(a)と同じ終端抵抗を用いた場合のインピーダンス特性を示している。

【0037】図5(b)に示すように、ULTTLドライバDRV2を用いた場合、その出力インピーダンスが出力信号レベルに応じて2段階で切り換わる。例えば、ハイレベル側では、出力信号の電圧が一定のレベルを越えると、出力インピーダンスが大きくなり、逆にローレベル側では、出力信号の電圧が一定のレベル以下になると、出力インピーダンスが大きくなる。信号線TLを駆動するドライバにおいては、出力インピーダンスを小さくすることにより、伝送線の反射を抑制する効果が向上するが、消費電力低減の面から好ましくない。図

5 (b) に示すように出力インピーダンス特性を２段式にすることによって、反射の抑制と消費電力の低減という相反する目的を達成できる。

【0038】例えば、UL TTL ドライバー DRV 2 と終端抵抗を用いたインターフェース回路において、UL TTL ドライバー DRV 2 の出力がハイレベルのとき、伝送線 TL の電圧 V はハイレベルの出力インピーダンス特性 C 1 と点線で示している終端抵抗のインピーダンス特性 B との交差点 H 1 に安定する。このとき、UL TTL ドライバー DRV 2 から伝送線 TL に電流 I_{H1} が供給される。一方、UL TTL ドライバー DRV 2 の出力がローレベルのとき、伝送線 TL の電圧 V はローレベルの出力インピーダンス特性 C 2 と点線で示している終端抵抗のインピーダンス特性 B との交差点 L 1 に安定する。このとき、UL TTL ドライバー DRV 2 から伝送線 TL に負の電流（引き込み電流） I_{L1} が供給される。

【0039】図 5 (a) と (b) を比べると、 $I_{H1} < I_H$ 、 $|I_{L1}| < |I_L|$ 、即ち電流 I_{L1} の絶対値が電流 I_L の絶対値より小さい。同じ抵抗終端に対して、UL TTL ドライバー DRV 2 を用いた場合、CMOS ドライバー DRV 1 を用いた場合よりドライバーの駆動電流を小さくでき、低消費電力化が図れる。

【0040】ここで、図 3 に示すように、終端抵抗の代わりにクランプ回路を用いたインターフェース回路とした場合、さらに、ドライバーの駆動電流の低減を実現できる。具体的に、図 5 (b) に示す通り、UL TTL ドライバー DRV 2 の出力がハイレベルのとき、伝送線 TL の電圧 V はハイレベルの出力インピーダンス特性 C 1 とハイレベル側のクランプ特性 D 1 との交差点 H 2 に安定する。このとき、UL TTL ドライバー DRV 2 から伝送線 TL に電流 I_{H2} が供給される。一方、UL TTL ドライバー DRV 2 の出力がローレベルのとき、伝送線 TL の電圧 V はローレベルの出力インピーダンス特性 C 2 とローレベル側のクランプ特性 D 2 との交差点 L 2 に安定する。このとき、UL TTL ドライバー DRV 2 から伝送線 TL に負の電流（引き込み電流） I_{L2} が供給される。

【0041】図示のように、 $I_{H2} < I_{H1}$ 、 $|I_{L2}| < |I_{L1}|$ 、即ち電流 I_{L2} の絶対値が電流 I_{L1} の絶対値より小さい。このように、UL TTL ドライバー DRV 2 を用いて伝送線 TL を駆動する場合、抵抗終端より本発明のクランプ回路を用いた方がドライバーの駆動電流が小さくなり、低消費電力化が図れる。さらに、抵抗終端の場合、UL TTL ドライバー DRV 2 の出力信号レベルにかかわらず、常に抵抗素子にバイアス電流が流れるので、無駄な消費電力が生じる。クランプ回路を用いた場合、終端用抵抗素子が不要となり、バイアス電流により生じた電力損失が防げる。

【0042】なお、以上説明した本発明のクランプ回路の実施形態は、MOS トランジスタとダイオードによ

て構成されている。本発明のクランプ回路は、これに限定されるものではなく、例えば、バイポーラトランジスタとダイオードによって構成することも可能である。その一例として、図 6 に示すクランプ回路が挙げられる。

【0043】図示のように、この例では、図 1 に示す n MOS トランジスタ NT 1 の代わりに npn トランジスタ N 1 が用いられ、p MOS トランジスタ PT 1 の代わりに pnp トランジスタ P 1 が用いられる。npn トランジスタ N 1 において、そのベースにノード ND 1 の分圧電圧 V_{ND1} が印加され、コレクタが電源電圧 V_{CC} の供給線に接続され、エミッタがダイオード D 1 のアノードに接続されている。pnp トランジスタ P 1 においては、そのベースにノード ND 2 の分圧電圧 V_{ND2} が印加され、コレクタが接地され、エミッタがダイオード D 2 のカソードに接続されている。

【0044】nnpn トランジスタ N 1 のベース-エミッタ間電圧を V_{ben} とし、pnp トランジスタ P 1 のベース-エミッタ間電圧を V_{bep} とし、ダイオード D 1、D 2 及び分圧用抵抗素子 R 1、R 2、R 3 は、図 1 に示すクランプ回路と同じ条件とすると、図 6 のクランプ回路の下側クランプ電圧 V_{CL1} 及び上側クランプ電圧 V_{CL2} は、それぞれ $(V_{ND1} - V_{ben} - V_{D1})$ 、 $(V_{ND2} + V_{bep} + V_{D2})$ となる。

【0045】また、nnpn トランジスタ N 1 のエミッタと入力端子 T_{in} との間に、縦続接続されている２段以上のダイオードを設けて、また、入力端子 T_{in} と pnp トランジスタ P 1 のエミッタ間に縦続接続されている２段以上のダイオードを設けてもよい。さらに、図 6 に示すクランプ回路において、ノード ND 1 と ND 2 の電圧 V_{ND1} と V_{ND2} を制御するための n MOS トランジスタ NT 2 は、nnpn トランジスタまたは pnp トランジスタの何れかに置き換えてもよい。また、図 1 において、トランジスタ NT 1 とダイオード D 1 との接続関係、並びにダイオード D 2 とトランジスタ PT 1 との接続関係をそれぞれ逆にしてもよい。この場合、ダイオード D 1、D 2 がそれぞれ電源電圧 V_{CC} 側、接地電位 GND 側に接続され、トランジスタ NT 1、PT 1 がそれぞれ入力端子 T_{in} に接続される。

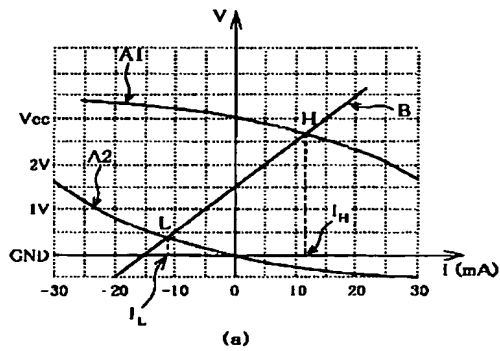
【0046】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のクランプ回路によれば、回路構成の簡素化が図れ、消費電力の低減を実現できる。さらに、本発明のクランプ回路を用いたインターフェース回路において、各バッファ回路の入力側にクランプ回路を設けることによって、伝送線の終端に通常必要であった終端抵抗を省くことができ、終端抵抗のバイアス電流による無駄な電力損失を防止できる利点がある。

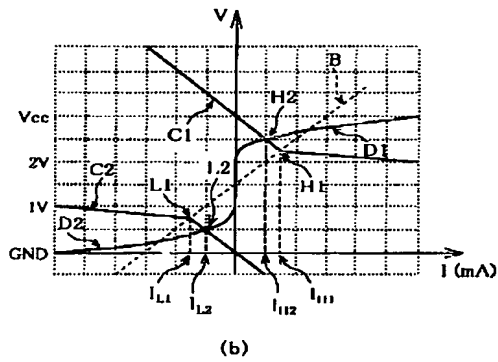
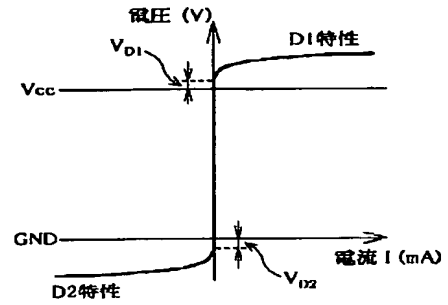
【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係るクランプ回路の一実施形態を示す回路図である。

【図5】



【図8】



フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁷

識別記号

F I

(参考)

H 0 3 K 19/0944

H 0 3 K 19/094

A

H 0 4 L 25/02

Fターム(参考) 5F038 BE08 BH02 BH04 BH06 BH07
BH13 BH15 BH19 CD08 DF07
EZ20
5J032 AA04 AB02 AB11 AC03 AC04
AC17 AC18
5J056 AA00 AA11 AA40 BB17 BB23
BB46 BB52 DD02 DD13 DD25
DD28 DD57 FF07 FF08
5K029 AA02 AA13 AA18 DD04 HH01
JJ08 LL06

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☐ **FADED TEXT OR DRAWING**

☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.